



令和3年度 森林総合研究所四国支所公開講演会

四国の森のつくりかた —森をはぐくむ土と水—

- ・ 森林保全はSDGsの実現に重要なパーツ。
- ・ 地質、土壌、水、人間活動と森林の関わりを理解することは、森林を良い状態で維持管理するために不可欠である。
- ・ 時を遡りつつ、四国の森林がどのように成り立っているかを考察する。
- ・ 令和3年12月1日よりYouTube「森林総研チャンネル」により配信予定

概要

四国の森林面積は約140万ヘクタール、陸地全体の約7割が緑に覆われています。そのような豊かな森林がある背景には、四国の地形、地質、土壌、水の循環といった環境条件が、他の地域と比べて特徴的であることが挙げられます。そのため、地質形成や過去の植生がどのようなものであったかを知ることで、現在の四国の森林をより深く理解することができます。

この講演会では、高知大学からお二人の先生をお招きして、四国の森林をかたち作る土台となっている地形、地質、土壌、水そして植物に焦点を合わせて、最新の研究成果を紹介したいと思います。

◎詳細は別紙チラシをご覧ください。

問い合わせ

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所 支所長 岡 輝樹
<広報担当者> 森林総合研究所四国支所 産学官民連携推進調整監 佐藤 重穂
<問い合わせ先> 森林総合研究所四国支所 地域連携推進室長 藤原 拓也

Email : koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

Tel : 088-844-1121 (代) Fax : 088-844-1130

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています

